

## 藤沢市生物多様性地域戦略（素案）

### パブリックコメントの結果と意見反映について

1. 募集期間 2018年（平成30年）2月22日（木）～3月15日（木）

2. 意見の件数 4件

3. 意見提出者数 2人

4. 意見提出者の内訳 市内在住者1人 利害関係者1人

5. 内容別の意見件数

項目	件数	計画へ反映した意見の件数
全体に対する意見	3件	0件
個別に対する意見	1件	1件

番号	ご意見要旨	ご意見に対する藤沢市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60 年程前には 25 万坪あった辻堂砂丘帯が消滅し、かつては普通にあった砂海岸特有の植物種が時間の経過とともに姿を消しつつあります。加えて、台風や高潮などの自然攪乱や観光地ゆえの人為的攪乱の危険が潜在する生息域です。辻堂海岸の生態系復元は喫緊の課題と考えています。</li> <li>・ 国道交通省国土技術政策総合研究所の研究成果では、植生砂丘帯を自然インフラとして意義付け、調整サービスとして、防災、減災効果の有効性が指摘されていることから、例えば、様々な立場を考慮した浜辺の利用のルール作り『湘南海岸カントリーコード』のような合意形成は生態系を保全するうえで必要でないかと考えます。</li> <li>・ 砂浜海浜植物群落の生物多様性と生態系にとって効果的な「戦略」が策定されることを切に願っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回藤沢市自然環境実態調査の結果では、砂浜植生が立地する辻堂海岸周辺を、固有性を有する場所として評価しています。</li> <li>また、砂浜植生は砂浜保全や飛砂の防止などの機能を有しており、今後も保全する必要があると認識しています。</li> <li>・ 本戦略においては、施策④「生物多様性に配慮したインフラ整備の推進」の取組み内容の「あらゆる主体によるグリーンインフラの取組みを推進します。」で取り組む予定ですが、ご意見を受け、施策を取り巻く現状と課題に「海浜植生がグリーンインフラとしての機能を有している」ことを、加筆したうえで、取り組んでまいります。</li> </ul> <p>※本戦略では「自然インフラ」を「グリーンインフラ」という用語で表現しています。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素案に賛成し、積極的に進めていただきたい。</li> <li>・ ただし、タイトルは「藤沢市生物多様性地域戦略（素案）」よりサブタイトルの～生きものの恵みを感じる藤沢のまちづくり～を前面に打ち出したほうが良いと思います。</li> <li>・ 生物多様性地域戦略では、硬すぎる。内容も学術論文的で一般市民の賛同が得られないのではないかと危惧します。また、専門的過ぎると最初から無関係であると敬遠されます。</li> <li>・ タイトルも含め、小学生にも理解できるような平易な表現を工夫されるようお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律や国の示す戦略策定の手引きに沿った形で「藤沢市生物多様性地域戦略」を計画名称としたうえで、戦略策定のテーマ（ねらい）として「生きものの恵みを軸とした藤沢のまちづくり」をサブタイトルとしました。</li> <li>・ 市としても、まずは生物多様性に関する普及啓発に取り組んでいきたいと考えていることから、戦略策定後は、平易な表現の概要版の作成を予定しており、その際はサブタイトルを活用してまいりたいと考えております。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性の重要性を平易な表現で解説したパンフレットの作成、市民向け講座の開設や広報での紹介、企業・学校・市民団体への説明会開催等 P R 活動を期待しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記概要版の作成のほか、生物多様性に関するシンポジウムの開催、商工会議所等と連携した企業等への研修会の開催など、P R 活動に努めてまいります。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民ヒアリングを実施していますが、その際の聞き取り結果を十分吟味し、施策策定に反映してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略検討にあたっては、検討の初期段階で、関係者（農業・商工・教育分野）の方たちにヒアリングを実施し、施策策定のヒントといたしました。今後も、ヒアリング結果を施策の推進に活かしてまいりたいと考えております。</li> </ul>